



## 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月14日

上場会社名 株式会社インバウンドテック 上場取引所 東  
コード番号 7031 URL <https://www.inboundtech.co.jp/>  
代表者 （役職名）代表取締役 社長執行役員 （氏名）東間 大  
問合せ先責任者 （役職名）取締役CFO 専務執行役員 管理本部長 （氏名）金子 将之 TEL 03-6274-8400  
半期報告書提出予定日 2025年11月14日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：有（個人投資家向け動画配信方式）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	1,092	△19.6	△42	—	△65	—	△78	—
2025年3月期中間期	1,358	△20.8	15	△90.9	13	△92.1	0	△99.9

（注）包括利益 2026年3月期中間期 △72百万円（—％） 2025年3月期中間期 2百万円（△98.0％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	△33.03	—
2025年3月期中間期	0.04	0.04

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	2,663	1,873	57.0
2025年3月期	2,843	1,983	57.5

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 1,518百万円 2025年3月期 1,634百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	2,600	2.2	135	531.2	105	562.4	60	—
								24.07

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期中間期	2,492,275株	2025年3月期	2,492,275株
2026年3月期中間期	136,300株	2025年3月期	92,600株
2026年3月期中間期	2,369,919株	2025年3月期中間期	2,472,947株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、第2四半期（中間期）決算短信（添付資料）4ページ「（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) キャッシュ・フローの状況 .....	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 中間連結貸借対照表 .....	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	6
中間連結損益計算書 .....	6
中間連結包括利益計算書 .....	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、マルチリンガルCRM事業における日本語案件につきましては、民間企業から受託する案件数は安定的な増加が続いております。案件単位の売上・利益の額が大きい官公庁等の入札業務については、第2四半期以降開始となる案件については計画に近い形で獲得が進捗いたしました。競合の参入増や人件費の高騰などから原価の面では厳しい外部環境が続いており、利益の確保においては計画を下回る進捗となりました。一方、多言語分野に係る業務の受注及び入電数については、インバウンド需要増に伴い順調に増加傾向が続いており、今後も安定した成長が見込まれる状況です。また、事業の新たな柱を目指して医師会及び健康保険組合の帳票作成代行等のヘルスケアBPO事業に取り組んでおりますが、収益化が視野に入りつつある状況まで来たものの、グループへの利益貢献につきましては相応の時間を要するものと見込んでおります。その他、連結子会社である株式会社OmniGridにつきましては、同社が提供するIVRサービスの主顧客であるEPARKのID数が当初計画を下回る推移が続く状況であったことからIVRサービス及びBizTAPに関する事業売却が完了いたしました。これにより、のれんの償却負担減と収益化している既存事業のBizTAP AIとデスクウイング事業に集中することで同社の売上高は売却前と比べ減収となりますが、利益構造は大きく改善しております。

セールスアウトソーシング事業においては、主力業務であります訪問による東京電力グループの顧客向け営業業務が計画に近い形で進捗しました。一方、もう一つの主力業務であるソフトバンクモバイルにおける契約勧奨業務については、他社業務委託先による個人情報流出の疑いによって営業目的での架電が停止となりましたが、当中間連結会計期間においては、売上については計画通り、利益については計画を上回る形で推移いたしました。第3四半期以降については代替案件へ人員をシフトすることにより、年間計画の達成を目指してまいります。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は1,092,225千円(前年同期比19.6%減)、営業損失は42,427千円(前年同期 営業利益15,598千円)、経常損失は65,329千円(前年同期 経常利益13,219千円)、親会社株主に帰属する中間純損失は78,286千円(前年同期 親会社株主に帰属する中間純利益91千円)となりました。

	前中間連結会計期間 (千円)	当中間連結会計期間 (千円)
売上高	1,358,112	1,092,225
営業利益又は営業損失(△)	15,598	△42,427
経常利益又は経常損失(△)	13,219	△65,329
親会社株主に帰属する中間純利益又は中間純損失(△)	91	△78,286

また、四半期会計期間毎における経営指標は以下の通りであります。

	第1四半期 連結会計期間(千円)	第2四半期 連結会計期間(千円)
	自2025年4月1日 至2025年6月30日	自2025年7月1日 至2025年9月30日
売上高	522,002	570,222
営業利益又は営業損失(△)	△60,117	17,690
経常利益又は経常損失(△)	△82,757	17,427

セグメント別の状況は以下のとおりであります。また、各事業分野のセグメント利益は、全社管理部門費用195,648千円を含まない額であります。

・マルチリンガルCRM事業の概況

・マルチリンガルCRM事業の概況

マルチリンガルCRM事業におきましては、日本語を含む13言語を活用し、外国人と日本人のコミュニケーション問題を解決する多言語・通訳ソリューションを24時間365日体制で提供しております。

当セグメントにおける主要サービスである多言語によるサポートニーズですが、訪日外国人観光客の増加に伴い、当中間連結会計期間については、入電数や新規案件の引き合い増など、インバウンド関連は右肩上がりの状況が継続しております。しかしながら、売上・利益の額が大きい日本語案件と比較すると、規模はまだ成長途上であるため、今後も営業活動を継続して案件の増加に取り組んでまいります。

また、案件単位の売上・利益の額が大きい官公庁等の入札業務については、2025年8月に公表した株式会社日本旅行との業務提携による、公務・地域事業の共同推進により、第2四半期以降開始となる案件が計画に近い形で獲得が進捗いたしました。しかしながら競合の参入増や係る人件費の高騰などから原価の面では厳しい環境が続き、利益の確保においては計画を下回る進捗となりましたが、今後も同社とのアライアンス拡大については注力してまいります。民間企業からの日本語案件につきましては、前期後半から注力している通販のカスタマーサポートに加え、BizTAP AIのライセンス販売及び開発受託など、新たな収益源が立ち上がっておりますが、入札業務で計画していた利益のカバーについては現状においては限定的な状況となっております。

その他、医師会及び健康保険組合の帳票作成代行等のヘルスケアBPO事業につきましても、収益化が視野に入りつつある状況まで来たものの、案件の獲得が計画を下回る形で進捗しており、グループへの利益貢献につきましては相応の時間を要するものと見込んでおります。

以上の結果、マルチリンガルCRM事業全体では、売上高は793,009千円（前年同期比14.1%減）、セグメント利益は75,611千円（同51.4%減）となりました。

	前中間連結会計期間 (千円)	当中間連結会計期間 (千円)
売上高	923,583	793,009
セグメント利益	155,473	75,611

・セールスアウトソーシング事業の概況

セールスアウトソーシング事業では、主に当社がクライアント企業に代わって見込みユーザーに対してインサイドセールス等を行っております。当中間連結会計期間については、主力業務であります訪問による東京電力グループの顧客向け営業業務が計画に近い形で進捗しました。一方、もう一つの主力業務であるソフトバンクモバイルにおける契約勧奨業務については、他社業務委託先による個人情報流出の疑いによって営業目的での架電が停止となりましたが、当中間連結会計期間においては売上については計画通り、利益については計画を上回る形で推移いたしました。また、通信業界における更なる競争力の向上を目的に、2025年6月にモバイルプロモーション関連事業を事業譲受にて取得しておりますが、売上・利益の底上げについては第3四半期以降になるものと見込んでおります。

以上の結果、セールスアウトソーシング事業全体では、売上高は317,297千円（前年同期比27.7%減）、セグメント利益は77,610千円（同9.6%増）となりました。

	前中間連結会計期間 (千円)	当中間連結会計期間 (千円)
売上高	438,995	317,297
セグメント利益	70,791	77,610

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当中間連結会計期間末における総資産は現金及び預金などが増加した一方、売掛金、その他資産の減少などにより、前連結会計年度末に比べ180,107千円減少し2,663,402千円となりました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ115,176千円減少し1,949,416千円、固定資産は前連結会計年度末に比べ64,930千円減少し713,985千円となりました。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債合計は未払法人税等が増加した一方、買掛金及び長期借入金などが減少したことにより前連結会計年度末に比べ70,035千円減少し790,197千円となりました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は利益剰余金の減少及び自己株式の取得などにより前連結会計年度末に比べ110,072千円減少し1,873,205千円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比べ149,576千円増加し、現金及び現金同等物の当中間連結会計期間末残高は1,556,723千円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、172,453千円の収入で、売上債権の回収などにより前年同期に比べ154,191千円の収入増加となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、6,879千円の支出で、固定資産の取得及び事業譲渡による収入、事業譲受による支出などによるものです。前年同期に比べ93,668千円の支出減少となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、15,998千円の支出で、長期借入金の返済及び自己株式の取得及び自己株式取得のための預託金減少などによるものです。前年同期に比べ55,339千円の支出減少となりました。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の業績につきましては、2025年5月13日及び2025年5月26日（訂正後）2025年5月13日に公表いたしました業績予想に変更はありません。今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合は速やかに開示いたします。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位: 千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,407,147	1,556,723
売掛金	480,316	340,601
その他	177,299	52,102
貸倒引当金	△170	△10
流動資産合計	2,064,593	1,949,416
固定資産		
有形固定資産	116,147	99,981
無形固定資産		
のれん	18,463	101,050
顧客関連資産	276,750	256,250
その他	201,512	87,158
無形固定資産合計	496,726	444,459
投資その他の資産	166,041	169,544
固定資産合計	778,916	713,985
資産合計	2,843,510	2,663,402
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	71,795	59,373
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	144,000	144,000
未払法人税等	4,467	13,515
賞与引当金	760	—
その他	121,365	128,217
流動負債合計	742,388	745,105
固定負債		
長期借入金	108,000	36,000
資産除去債務	1,037	1,043
その他	8,806	8,048
固定負債合計	117,843	45,091
負債合計	860,232	790,197
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	548,024	548,024
資本剰余金	536,449	536,449
利益剰余金	635,496	557,210
自己株式	△85,746	△123,132
株主資本合計	1,634,223	1,518,551
新株予約権	21,466	21,466
非支配株主持分	327,586	333,187
純資産合計	1,983,277	1,873,205
負債純資産合計	2,843,510	2,663,402

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	1,358,112	1,092,225
売上原価	1,056,704	907,921
売上総利益	301,408	184,304
販売費及び一般管理費	285,810	226,731
営業利益又は営業損失(△)	15,598	△42,427
営業外収益		
受取利息	172	1,334
還付加算金	8	202
保証金精算益	140	—
その他	12	74
営業外収益合計	332	1,610
営業外費用		
支払利息	2,547	3,771
支払手数料	163	343
事務所移転費用	—	20,383
雑損失	—	13
営業外費用合計	2,710	24,513
経常利益又は経常損失(△)	13,219	△65,329
特別利益		
自己新株予約権消却益	837	—
特別利益合計	837	—
特別損失		
固定資産除却損	—	2,785
特別損失合計	—	2,785
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	14,056	△68,114
法人税、住民税及び事業税	6,414	2,546
法人税等調整額	5,532	2,024
法人税等合計	11,946	4,571
中間純利益又は中間純損失(△)	2,110	△72,686
非支配株主に帰属する中間純利益	2,018	5,600
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	91	△78,286



## (中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	2,110	△72,686
中間包括利益	2,110	△72,686
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	91	△78,286
非支配株主に係る中間包括利益	2,018	5,600

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	14,056	△68,114
減価償却費	49,145	22,609
顧客関連資産償却額	20,499	20,499
のれん償却額	44,985	14,869
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△90	△160
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,040	△760
受取利息及び受取配当金	△172	△1,334
支払利息	2,547	3,771
支払手数料	163	343
売上債権の増減額(△は増加)	10,861	139,715
仕入債務の増減額(△は減少)	△49,922	△12,422
未払金の増減額(△は減少)	△12,438	7,240
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	2,398
その他	△24,715	26,767
小計	53,881	155,425
利息及び配当金の受取額	172	1,334
利息の支払額	△2,925	△3,719
法人税等の支払額	△33,650	△15,773
法人税等の還付額	784	35,187
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,262	172,453
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△12,316	△964
無形固定資産の取得による支出	△86,187	△30,111
敷金及び保証金の差入による支出	△2,302	△951
敷金及び保証金の回収による収入	258	32,421
事業譲渡による収入	—	135,000
事業譲受による支出	—	△142,272
投資活動によるキャッシュ・フロー	△100,547	△6,879
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	100,000	—
長期借入金の返済による支出	△72,000	△72,000
リース債務の返済による支出	—	△758
自己株式の取得による支出	△18,833	△37,385
自己株式取得のための預託金の増減額(△は増加)	△81,150	94,146
新株予約権の行使による株式の発行による収入	646	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△71,337	△15,998
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△153,622	149,576
現金及び現金同等物の期首残高	1,701,535	1,407,147
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,547,912	1,556,723

## (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年2月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式43,700株の取得を行いました。この結果、当中間連結会計期間において自己株式が37,785千円増加し、当中間連結会計期間末において自己株式が123,132千円となっております。

(セグメント情報等の注記)

## I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	マルチリンガル CRM事業	セールスアウト ソーシング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	919,117	438,995	1,358,112	—	1,358,112
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,465	—	4,465	△4,465	—
計	923,583	438,995	1,362,578	△4,465	1,358,112
セグメント利益	155,473	70,791	226,265	△210,666	15,598

(注) 1. セグメント利益の調整額△210,666千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	マルチリンガル CRM事業	セールスアウト ソーシング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	774,928	317,297	1,092,225	—	1,092,225
セグメント間の内部売上高 又は振替高	18,080	—	18,080	△18,080	—
計	793,009	317,297	1,110,306	△18,080	1,092,225
セグメント利益	75,611	77,610	153,221	△195,648	△42,427

(注) 1. セグメント利益の調整額△195,648千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。